

名家連ニュース

令和4年4月7日(木)
発行：特定非営利活動法人
名古屋市精神障害者家族会連合会
会長 堀田 明
TEL/FAX(052)846-5576 NO.862号

「地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会」の検討情報 シリーズ④

厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課

精神保健福祉法上の入院制度等について⑦（医療保護入院）

対応の方向性

課題①について

○ 本人と家族が疎遠な場合等について、必ずしも当該家族の同意を要することなく、市町村長同意により、入院医療へのアクセスを確保することができる仕組みとしてはどうか。

課題②について

○ 医療保護入院者の病状を何らかの期間ごとに診察することを義務付けた上で、患者本人の希望も踏まえながら、その病状に応じ、医療保護入院の継続、任意入院への移行、退院の判断を行うこととしてはどうか。

○ 病院管理者が医療保護入院を行った場合に医療保護入院者に対して行う告知の内容について、現行の精神保健福祉法では、入院措置を採る旨、退院請求に関する事、入院中の行動制限に関する事が定められている。医療保護入院患者の権利擁護の観点から、入院を行う理由を追加してはどうか。

課題③について

○ 市町村長同意の見直し、患者の意思決定及び意思の表明についての支援の仕組みは、家族の負担を一定程度緩和することが期待される。

○ 他方で、家族等以外の者が同意を行う仕組みとすることについては、「これからの精神保健医療福祉のあり方に関する検討会」報告書（平成29年2月）において、「直ちに整理することは困難」とされている（※）。

○ こうした点を踏まえ、家族の支援のあり方について、どのように考えるべきか。※ 家族の負担を軽減する観点からは、同意を行う者を家族等以外とすることも課題として考えられるが、家族等が同意者となっている趣旨や実務的な対応可能性を踏まえると、現状でどのような者が同意を行うべき者に当たるかについて直ちに整理することは困難と考えられる。

課題④について

○ 調査結果を踏まえた上で、実効的な退院促進措置のあり方について検討する必要があるのではないかと。





患者の意思に基づいた退院後支援

精神保健福祉法上の入院制度等について⑧ (患者の意思に基づいた退院後支援)



現状・課題

- 退院後支援については、廃案となった平成 29 年精神保健福祉法改正法案に盛り込まれていたところ、国会での審議を踏まえ、「地方公共団体による精神障害者の退院後支援に関するガイドライン」(平成 30 年 3 月厚生労働省障害保健福祉部長通知)が示されている。
- 今後、ガイドラインの実効性を高めていくことが必要。

対応の方向性

- 患者の意思に基づいた退院後支援は、入院早期から支援体制を構築し、病院と連携しながら、多職種・多機関の協働を図るものであり、「包括的支援マネジメント」の一環としての位置付けを有する。
 - その運用状況については、現在、研究班で調査を進めているところ、患者本人が退院後に安心して生活をするため、多職種・多機関からの支援を継続して希望する場合は、患者の入院形態を問うことなく、支援を受けられるようにしてはどうか。
 - ガイドラインにおける警察の参加については、「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」の構築に関する取組の位置付けに照らし、警察は会議に参加しないこととしてはどうか。
- ※ 「地方公共団体による精神障害者の退院後支援に関するガイドライン」(平成 30 年 3 月)(抄) 多くのニーズや課題を抱える精神障害者が、地域で安心して生活するためには、多職種・多機関が有機的に連携し、本人のニーズに応じた包括的支援を提供する必要がある。国及び自治体は、精神障害者への退院後支援体制を整備することを通じて、行政と医療、障害福祉サービス、介護サービス等の顔の見える連携を推進し、本人の意向やニーズに応えられるよう地域の包括的支援体制を構築していくべきである。これにより、全ての精神障害者がその人らしい地域生活を送ることのできる社会を目指すことが、法の趣旨に適うものであり、地域移行の促進にもつながるものと考えられる。

高校の新学習指導要領で精神疾患の学習が約 40 年ぶりに復活

令和 4 年度の名家連総会の記念講演会は「保健教育」がメインテーマです。精神疾患は約 75% は 20 代前半までに発症します。社会に出ていく前に、学校教育の中で精神疾患の正しい知識や「特別な病気ではない」という認識が得られれば、10 代、20 代で発症したとき、早期発見・早期治療に繋がるのが期待できます。

今回は高校の「保健体育」が対象ですが、今後、中学校や小学校においても対象になること、そして、社会の偏見、内なる偏見が解消されていく大きな一歩になることを心から期待してやみません。 (名家連副会長：池山豊子)

